

VIEWS OF THE EARTHQUAKE IN WESTERN JAPAN, MAY 23rd, 1925



(1) 大正十四年五月二十三日震害
山陰本線豊岡驛構内、機關車庫東側大破損

(1) Toyooka Station, Sanin Line, Wrecked by
Japan's Latest Big Earthquake.

山陰地震の観測

大正十四年五月二十三日、山陰方面の地震に就き、東京帝國大學地震學教室に於る今村博士の觀測は下記の如くである。

発震時	午前十一時十分四十九秒
初期微動繼續時間	六十五秒
全部の繼續時間	一時間半
最大動	三十八耗(一寸二分)
初動の方向	正東の上方動
震源推定	東京の西約百二十里 (即ち但馬國西部に相當す)

山陰地震帶の活動ださうである。

一般の震害

兵庫縣警察部に達した城の崎署及び香住署の戸口調査に依り、二十五日夜までに判明した被害状況は、被害前戸數六千七百九十七に對し、被害戸數一千四百二十四、焼失戸數二千八十五、被害前人口三萬五千二十八に對し死亡者三百六十二、傷者三百九十四、行方不明五十三名である。

線路被害區域

山陰本線、江原香住間各橋梁の前後、六時乃至二呪沈下、城の崎を中心として前後一哩位の間被害甚しく二個所計り岩石崩壊して、軌道は彎曲切斷建物は城の崎官舎全焼、向待合半潰、本屋合宿所全潰。豊岡驛跨線橋、向待合、貨物上屋、官舎を残し、驛機關庫、保線區、建物半潰又は全潰、立武洞驛半潰等である。

鐵道の震害

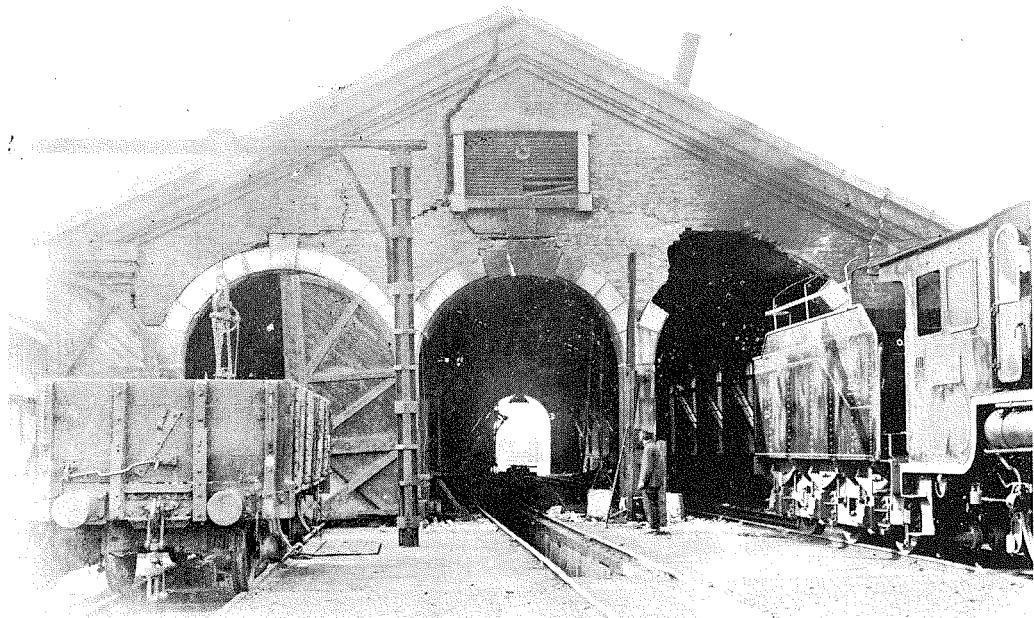
築堤沈下龜裂

切取より岩石轉落

驛舍、タンク等の破損

隧道破損

不通、豊岡城の崎間當日午後十時開通、城の崎竹野間、翌日正午開通以後引續き全通。

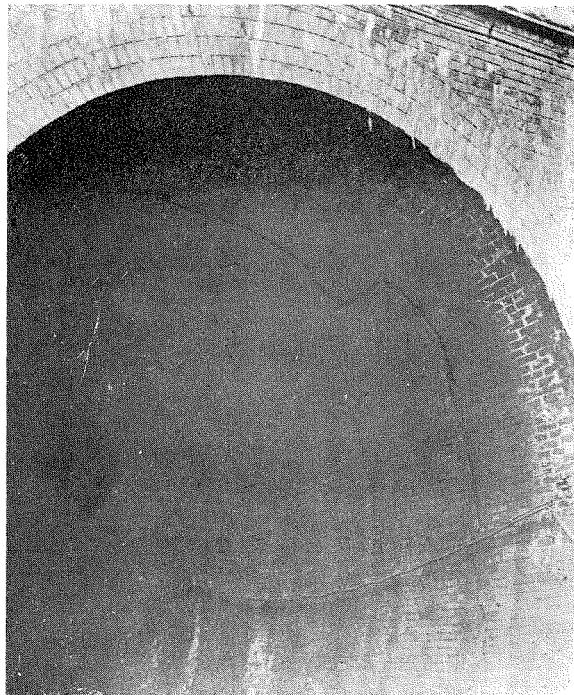


(2) 大正十四年五月二十三日震害
山陰本線豊岡驛傾斜半潰、本屋の南隅を望む。

(2) Engine House on the Sanin Line, Badly
Damaged by the Earthquake.

豊岡城の崎に區整を斷行

豊岡町の復興工事は新聞其他に依つて報ぜられてゐる如く、倒潰家屋の整理焼跡の灰取片付等に軍隊、青年團、消防隊及附近町村民の大努力によつて著々進捗してゐるが、更に豊岡町では町役場を基點として數條のレールを敷き、五千のトロツコを動かし鮮人工夫多數を使役して頻りに復舊工事に努めてゐる、従つて復興力は非常に増大し、豊岡町の復興も近きにありと思はれる、尙縣土木課も協力して根本的に區劃整理を斷行することとなり、又城崎町でもトロツコ一千臺を廿七日より動かし復興に任じてゐるが、こゝも根本的に區整を断行するといふことである。



(3) 大正十四年五月二十三日震害、山陰本線城崎竹野間、桃島隧道西口より拱壁大亀裂、向て右側
(3) Cracks in Momoshima Tunnel, Sanin Line, Between
Kinoshita and Takeno, Near Toyooka.